

ベニシジミ

(学名: *Lycaena phlaeas*)

(写真・文 緒勝祐太郎)

【鱗翅目シジミチョウ科】



▲ 葉上で翅を休める春型のベニシジミ



▲ お盆の頃に咲くミソハギの蜜を吸う夏型のベニシジミ

ベニシジミは国内に広く分布し、只見町でもっとも普通に見られるシジミチョウの一つ。翅を広げると2cmほどと小さいですが、名前のおり紅（^{べに}橙に近い）色の色彩が美しいチョウです。道ばたや田畑周辺の丈の低い草地をゆるやかに飛び、ハルジオンやヒメジョオン、シロツメクサなどの花を訪れて蜜を吸います。そして、メスは幼虫の餌となるスイバやエゾノギギシといったタデ科植物の根元近くに、卵を一つずつ産みつけていきます。これらの植物は日当たりのいい草地を好み、田んぼの畔などに多く見られます。スイバは茎を折って食べると酸っぱい味がすることから、只見では“すかっちょ”と呼ばれてきました。

ベニシジミは、春から秋まで見ることができるチョウです。春先に成虫が羽化し、その後、夏と秋にも新しい成虫が現れます。季節によって成虫の翅の色が変わることが特徴です。春と秋に出る成虫の翅は、あざやかな紅色の部分が目立ち「春型」と呼ばれ、夏に出るものは紅色がうすく、全体的に黒っぽくなり「夏型」と呼ばれます。このような翅色の違いは、主に幼虫期における日長が関わっており、昼の時間が長い夏では「夏型」、短くなる春・秋には「春型」になると考えられています。ベニシジミは、こうした日の長さによって脳から分泌されるホルモンを調節し、季節型を決定しているのです。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

企画展「只見のブナ林の昆虫」

会 期：2021年7月31日(土)～11月29日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー